

子どもたちの自己肯定感を高めるために、家庭でできること



学校では先生から子どもたちにこんな言葉掛けをしています

聴く

真剣に聴こうね。  
あなたの声も  
真剣に聴くよ。

褒める

練習をよくがんばったね。(結果より過程を褒める)

語る

先生はこう思うよ。  
あなたはどうか考える？

叱る

今回はここがいけなかったね。  
次はこんなことに気を付けてがんばろう。  
(叱られたことがその子の「価値」になるよう、次の一歩につなげる)



いじめ不登校対策委員会 後藤雄一郎 先生

「子どもの声を丁寧に聴くこと」は「大切に思うこと」と同じ



**「あなたが大切」**

という

メッセージが伝わります

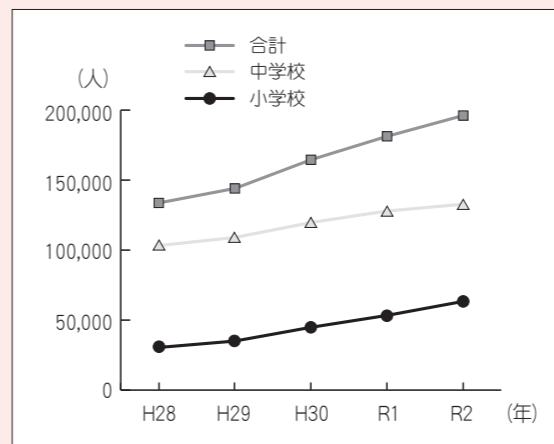
子どもの声を「聴くこと」に徹底的にこだわる

# あなたが大切だよ のメッセージ

問合せ 学校教育課 ☎32-1436



【図1】不登校児童生徒数の推移(文部科学省調査)



不登校児童生徒の増加  
「コロナ禍の影響による学校や家庭における生活環境の変化が、ストレスや不安を抱える児童生徒を増加させ、子どもたちの行動に大きな影響を与えていると考えられています。」  
令和2年度に行われた文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、不登校児童生徒の数は8年連続で増えていて、「コロナ禍ではさらに増加傾向になっていることが分かります(図1)」。その要因は「無気力、不安」が半数近くを示しています(図2)。小学校では、次いで「親子の関わり方」、中学校では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が挙げられています。また、公立の小・

【図2】不登校の要因(文部科学省調査)

小学校	
無気力、不安	46.3%
親子の関わり方	14.6%
中学校	
無気力、不安	47.1%
いじめを除く友人関係をめぐる問題	12.5%

自己肯定感を高める  
中学校では、学年を追うことに不登校の児童生徒が増加する傾向にあり、稲沢市も例外ではありません。  
不登校の大きな要因の一つとなっている「無気力」は、「何となくだるい」「学校に行くことが面倒くさい」などといった気分になってしまつた状況のことで、何らかの理由で自己肯定感が低くなつたり、不安を抱えたりしていることが原因の一つと考えられています。  
こうした状況を取り除くためには、子どもたちの自己肯定感を高め、「自分で自分を褒める機会」を増やし、安心して生活できる居場所をつくるのが大切です。子どもたちの生活の基盤となる「家庭」と「学校」が協力し合いながら環境を整えることで、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと思います。



自己決定する場を与える  
自己肯定感を高めるためには、子どもたちに「自己決定する場」を与えることが必要となります。この「自己決定」とは、身勝手な自己決定ではなく、他の人も大切に思いながら自分の行動を考えていくものです。  
「自己決定する場」が与えられると、次第に「自分で自分を褒める機会」も増えていきます。  
自分自身で決めることができた経験を積み重ねていくことで、「自分自身は、かけがえのない存在だ」と思えるようになります。  
また、同じように「～さんも大切な存在だ」と思える他者や周りへの尊重も見られるようになり、その結果、自己肯定感が高まっていきます。  
家庭においても、「自己決定する場」を与えられるようになっていきたいと思います。